

VI 学修成果

日本語表現科目を受講した学生は、修得した日本語運用スキルを、他科目でのレポート作成やゼミ発表の場で活かしている。またそれだけでなく、社会的に知名度の高い検定試験を活用して、自分の実力を客観的に測定しようという意欲もみせている。本学ではこうした学生の受検の便宜を図るため、検定試験の学内団体受検を実施している。

本章では、平成 22 年度から 25 年度までの検定試験学内団体受検をはじめとした各種学修成果について報告する。

1. 日本漢字能力検定

(畠恵里子)

- 1-1) 検定の概要
- 1-2) 団体受検の概要
- 1-3) 受検結果
- 1-4) 表彰
- 1-5) 分析および今後の課題

2. 日本語検定

- 2-1) 検定の概要
- 2-2) 団体受検の概要
- 2-3) 受検結果
- 2-4) 分析および今後の課題

3. その他

- 3-1) 新聞投稿

1. 日本漢字能力検定

1-1) 検定の概要

公益財団法人日本漢字能力検定協会の主催による「日本漢字能力検定」(以下、「漢検」という)は、漢字の「読み」「書き」に対する知識量と、文章の中で漢字を適切に使用できる能力とを測定する検定である。

漢検の受検級は、1～10級の12段階に分かれている。本学で学内団体受検を実施している2級・準2級の試験概要は、表VI-1のとおりである。なかでも2級は、すべての常用漢字を理解し文章の中で適切に使用できる能力を必要とすることから、本学学生が合格を目指すのに最も適したレベルである。

表VI-1 漢検2級・準2級の概要

級	2級	準2級
レベル	高校卒業・大学・一般程度	高校在学程度
対象漢字	常用漢字2,136字すべて	常用漢字のうち1,940字
出題内容	漢字の読み、漢字の書き取り、部首・部首名、送り仮名、対義語・類義語、同音異字・同訓異字、誤字訂正、四字熟語、熟語の構成など	
試験時間	60分	
検定料	3,500円	1,800円
合格基準	80%程度	70%程度

※表中の内容は、漢検ホームページに拠る

1-2) 団体受検の概要

本学では、学生の受検の便宜を図るため、年1回前期に星が丘キャンパスで2級・準2級を対象とした有料の学内団体受検を実施している。本学の学生(大学院生を含む)であれば、受検資格は問わない。募集要項は、アカデミックポータルで全学生・大学院生に配信される。受検に必要な事務手続き等については、国際交流センター事務室がこれを担当している。



図VI-1 漢検学内団体受検風景(H25.06.30)

1-3) 受検結果

平成22年度から平成25年度までの受検結果は、表VI-2のとおりである。毎年1年生を中心に、2級・準2級合わせて300人近くが受検しており、学生の関心は高いといつてよい。2級の合格率は24.5～39.0%であり、おおむね全国合格率よりも高い水準を保ってい

る。一方、準2級は78.9～84.0%という非常に高い合格率を維持しており、全国合格率と比較すると極めて良好な成績を修めているといえる。

表VI-2 漢検受検結果一覧(平成22～25年度)

年度	実施日	2級				準2級			
		受検者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国合格率 (%)	受検者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国合格率 (%)
H22	8月20日	187	48	25.7	26.9	25	21	84.0	43.2
H23	6月4日	261	64	24.5	21.8	25	20	80.0	37.7
H24	6月17日	251	98	39.0	24.5	19	15	78.9	34.2
H25	6月30日	260	79	30.4	21.3	20	16	80.0	36.2

※表中の全国合格率は、漢検ホームページに拠る

1-4) 表彰

漢検には、受検者の学習意欲向上を支援するための「表彰支援制度」がある。この制度を用いて、平成24年度より成績優秀者を表彰している。過去2年間の表彰者は表VI-3のとおりである。

表VI-3 漢検成績優秀表彰者(平成24～25年度)

年度	最優秀賞(1人)		優秀賞 (人)	努力賞 (人)
	氏名	所属		
H24	水野木の実	人間情報学部2年	2	4
H25	寺田真衣	交流文化学部3年	3	5

1-5) 分析および今後の課題

1年前期開講科目「日本語表現T1」では漢検2級出題範囲に準拠した小テストを合計10回実施している。全国平均よりも高い合格率を維持する背景には、こうした授業の取り組みが功を奏していると考えられる。一方、受検希望者が1年生に偏っており上級生の挑戦が少ないことが課題として挙げられる(2級:平成22～25年度30～77人。準2級:平成22～25年度2～6人)。今後は、受検への継続的な挑戦を促すしくみづくりが必要である。また、それにより全学的な合格率向上も期待できるだろう。

2. 日本語検定

2-1) 検定の概要

特定非営利活動法人日本語検定委員会の主催による「日本語検定」(以下、「語検」という)は、日本語の総合的な運用能力を測定する検定である。語検の受検級は、1～7級の7段階に分かれている。本学で学内団体受検を実施している2級・3級の試験概要是、表VI-4のとおりである。なかでも2級は社会人・大学生レベルの総合的な日本語運用力を必要とすることから、本学学生が合格を目指すのに最も適したレベルであるといえる。なお、語検には「準認定」という認定基準があり、受検級が2級の場合は得点率70%以上80%未満、3級の場合は得点率60%以上70%未満で、それぞれ「準2級」「準3級」の認定を受けることができる。

表VI-4 語検2級・3級の概要

級	2級	3級
レベル	社会人・大学生	社会人・大学生・高校生
出題領域	語彙、文法、言葉の意味、漢字、敬語、表記	
試験時間	60分	
検定料	4,700円	3,200円
認定基準	80%程度	70%程度

※表中の内容は語検ホームページに拠る。検定料は団体割引を適用。

2-2) 団体受検の概要

本学では、学生の受検の便宜を図るため、年1回後期、星が丘キャンパスで2級・3級を対象とした有料の学内団体受検を実施している。受検資格や募集要項の配信方法、事務手続き等担当部署は、漢検と同様である。

2-3) 受検結果

平成22年度から平成25年度までの受検結果は、表VI-5のとおりである。受検者は1年生を中心に、2級・3級をあわせて105～189人が受検しているが、年度によって受検者数が一定しない。合格率については、2級で30.0～49.1%、3級で79.4～97.9%となっており、年度ごとに多少の差はあるものの、いずれも全国の大学生平均認定率よりも高い水準を保っている。

なお、平成25年度は2級・3級ともに過去最高の認定率を挙げ、同検定委員会より、団体表彰「東京書籍賞 最優秀賞（大学・短期大学の部）」を受賞した。

表VI-5 語検受検結果一覧(平成 22~25 年度)

年度	実施日	2級				3級			
		受検者 (人)	認定者 (人)	認定率 (%)	全国大学認定率 (%)	受検者 (人)	認定者 (人)	認定率 (%)	全国大学認定率 (%)
H22	11月13日	42	17	40.5	31.6	104	94	90.4	74.5
H23	11月12日	92	32	34.8	26.4	68	54	79.4	67.1
H24	11月10日	110	33	30.0	31.6	79	69	87.3	74.5
H25	11月9日	57	28	49.1	33.7	48	47	97.9	85.1

※認定率には、準認定を含む。

2-4) 分析および今後の課題

1年後期開講科目「日本語表現 T2」では、語検 2 級出題範囲に準拠した小テストを合計 10 回実施している。全国平均より高い認定率を維持する背景には、こうした授業の取り組みが功を奏していると考えられる。

一方、漢検と比較して語検の受検者数が少ないのは、受検料が高額（2 級で 4,700 円）であることも要因の一つであると考えられる。こうした学生負担を軽減すべく、平成 26 年度より受検料の大学全額負担を実施する方向で調整が進められている。現在は受検の大半が 1 年であるが、次年度の受検料無料化を契機として、上級生に継続的な挑戦を促して合格率の向上を図りたい。また、語検の認定実績は公的な職業能力証明書であるジョブ・カードの記載対象になることなどを周知し、積極的な挑戦を促す必要がある。

3. その他

3-1) 新聞投稿

学生は新聞などへの投稿にも積極的に挑戦している。なかでも文学部やメディアプロデュース学部生の応募が多い。投稿先は『中日新聞』が大半である。一度採用された経験から、再度投稿に挑戦する意欲的な学生もいる。採用結果は以下の通りである。

平成 23 年度

氏名	所属	タイトル	掲載紙
吉田 佳織	心理学部1年	たかが言葉 されど言葉	『東京新聞』5月9日朝刊「発言」欄
二村 有香	メディアプロデュース学部1年	想像力欠ける「善意」を反省	『中日新聞』5月 21 日朝刊「ヤングアイズ」欄
松本 莉奈	メディアプロデュース学部1年	「ありがとう」心温まる言葉	『中日新聞』6月 26 日朝刊「ヤングアイズ」欄
水野 光理	文学部教育学科1年	節電で見直す一家の団らん	『中日新聞』7月 14 日朝刊「ヤングアイズ」欄
水野 光理	文学部教育学科1年	自動車専用道早期整備望む	『中日新聞』11月6日朝刊「ヤングアイズ」欄
高橋 亨江	メディアプロデュース学部1年	手話での会話 心もつながる	『中日新聞』11月 21 日朝刊「発言」欄

平成 24 年度

氏名	所属	タイトル	掲載紙
三輪 雅貴	健康医療科学部スポーツ・健康医学科1年	将来見越して学生生活送る	『中日新聞』7月 15 日朝刊「ヤングアイズ」欄
見郷 彰彦	文学部教育学科1年	「マナー違反」言う勇気大切	『中日新聞』7月 27 日朝刊「発言」欄
見郷 彰彦	文学部教育学科1年	失敗しても大丈夫だよ	『中日新聞』10月 12 日朝刊「発言ヤング」欄
加藤 小巻	メディアプロデュース学部1年	報道の裏側に見えない事実	『中日新聞』11月 20 日朝刊「ヤングアイズ」欄

平成 25 年度

氏名	所属	タイトル	掲載紙
夏目 理沙	文学部教育学科 1 年	恩師目指したい	『中日新聞』5月 11 日夕刊「ハイ編集局です」欄
大野紗矢香	ビジネス学部 1 年	自分から動く人になりたい	『中日新聞』5月 18 日朝刊「ヤングアイズ」欄



《コラム③》 「私だけ」が分かる文章から「みんな」が分かる文章へ

福祉貢献学部准教授 谷 口 純世

学生は日頃、何のために文章を書いているのだろうか。メール、ブログ、手紙、講義で取るノート、レポート、記述式テスト、履歴書、実習の記録など、大学生活では文章を書く機会が多い。そのなかで、他者に伝わる文章を書こうと努力する割合はどのくらいだろうか。私自身は、恥ずかしいことだが、大学生活ではレポートは期日までに提出するのに必死、実習では学んだことをまとめるだけで必死で、それが他者に伝わりやすい文章になっているかどうかは考えてもいなかった。

初めて「みんな」が分かる文章の大切さに気付いたのは、児童養護施設で仕事を始めたときだった。児童養護施設では、複数の職員がローテーションを組んで24時間体制で子どもの生活支援を行う。一般家庭での子育てと異なり、職員の休日や休み時間、出張や会議などによって、子どもとの生活に空白の時間ができるため、口頭による引き継ぎに併せ、一人ひとりの職員が、子どもたちの心身の状況や出来事、子どもたちの家庭や学校の様子、電話の通話内容、ボランティアとの交流状況など、日々の記録を作成している。子どもたちやその家族の生活・人生を守る仕事では、日々の支援を職員が円滑に、一貫して行なうことが非常に大切である。もし日々の記録が、「私だけ」に分かる文章であると、主語が抜けたり、細かな子どもの感情の移り変わりの様子がつかめなかったり、電話がかかってきたが内容が分からなかったりと、次の支援をする人に大きな支障が出る。しかし、「みんな」が分かる文章であるときには、自分がたかもその場にいたかのように、生活の全体像と個々の子どもの様子が分かり、子どもに余計な負担をかけずに支援を進めることができるのだ。

これは、どのような職種でも言えることだろう。今、大学教員という立場にあるが、文章は仕事の遂行において重要である。特に事務職員の方々の文章、仕事の引き継ぎ・展開の素晴らしさには教わることがとても多い。また、毎年担当する役割が変わる中、前年の仕事をいかに「みんな」が分かる文章にしてうまく引き継ぐかは、学生の教育環境を守るうえで重要なことだと常々感じている。一般企業であってもそれは変わらないだろう。

愛知淑徳大学では、丁寧かつ実践的な日本語教育が行われている。これは学生の将来にとって必ず役立つ教育であると考えている。しかし、私はこの委員になるまで、日本語表現での教育を、自分の担当する講義で発展させていくことがなかった。日本語表現で教わったことを学生が大学の各教科目のなかで復習し、さらにスキルアップしていくことができるよう導くことが、学生の将来への私たちの責任であると今は考えている。